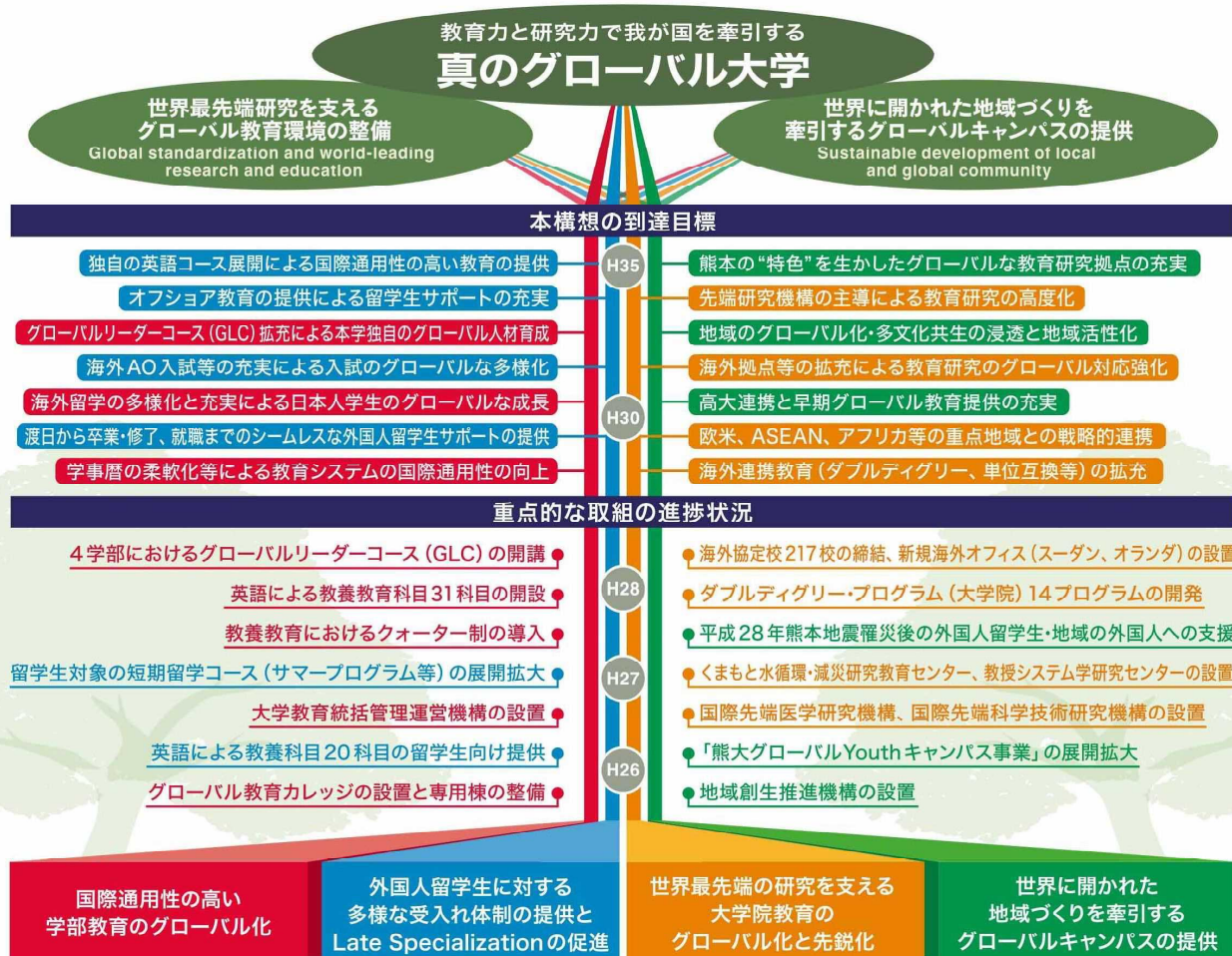
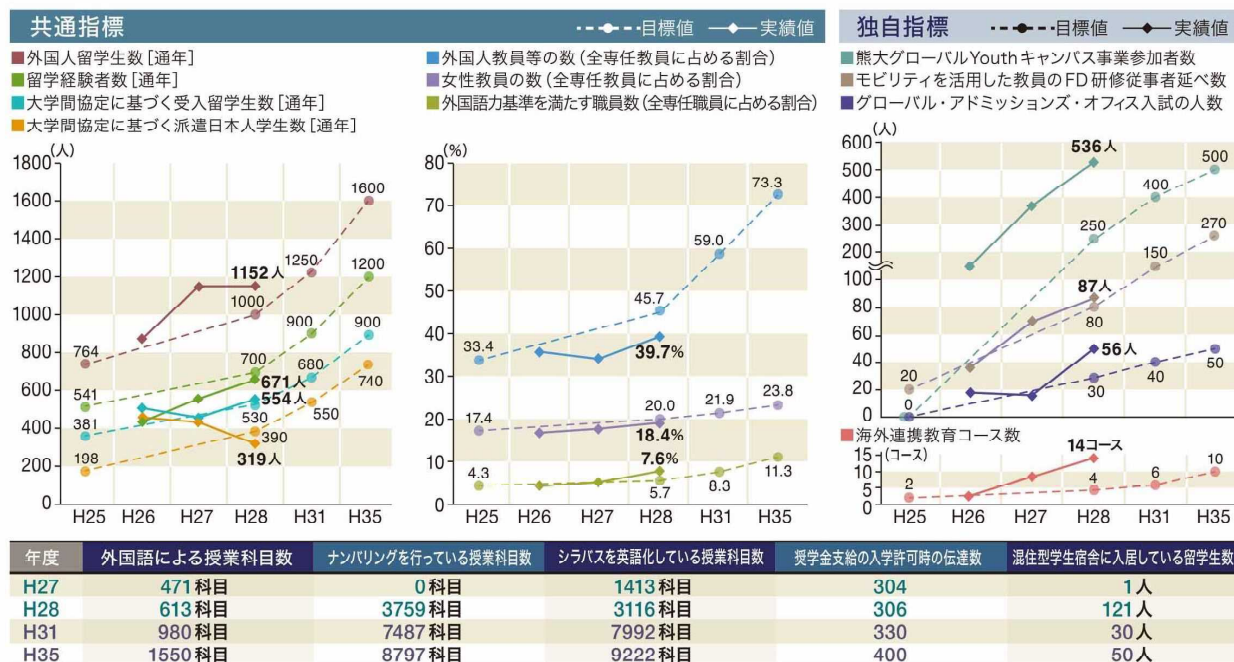


進捗状況の概要【1ページ】



主要指標の達成状況



特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

旧制五高の伝統と精神に根ざした熊本大学ならではのグローバル人材育成と地域創生に貢献する地域のグローバル共生を着実に推進

48

※グローバルリーダーコース（GLC）入学人数（H29年度）



グローバルリーダーコース（GLC）の開講

学部教育のグローバル化を推進するため、既存の4学部（文・法・理・工）に合計定員50人でグローバルリーダーコース（GLC）を設置し**48人**を選抜、H29年4月に開講した。GLCは、本学の前身である旧制五高の伝統と精神を受け継ぐ「GOKOH School Program」を中心として、より深い教養と世界レベルの広い視野を身に付け、21世紀のグローバル社会を逞しく生き抜くグローバルリーダーを育成するコースで、グローバルリーダーに必要な能力と専門基礎力を学ぶ「グローバル学修プログラム」及び、グローバルに活躍できる資質能力を身につける「グローバル課外教育プログラム」から構成される。入学予定者は、入学までの5ヶ月間「Pre-GOKOH School Program（入学前セミナー）」に参加し、eラーニングシステムを利用したWeb上での学修や大学に来て受講するスクーリングを通じて、グローバル教育の基礎を学ぶ。

熊大グローバルYouth キャンパス事業の多彩な展開

地域の高校・高専生等を対象に、大学入学前に様々なグローバル教育の機会を提供し、グローバル交流に対する関心や理解を深め、大学のグローバル教育に興味を持ってもらうためのプログラムやイベントを積極的に展開している。「留学生とMeet & Greet」（高校生と留学生の交流）、「リマフェスタ」、「Open College Day」（交換留学経験のある本学在学生による留学体験発表、本学のグローバル科目の模擬授業やIELTSの体験型説明会等）など、学内で実施する様々な行事のほか、SGH・SSH採択校をはじめとした地域の高校・高専に本学の外国人数員や留学生を派遣し、英語による授業や論文指導を行うなど、多彩なプログラムを企画・実施し、H27年度は**382人**、H28年度は**536人**の参加者があった。

918

※熊大グローバルYouth キャンパス事業参加者数（H27-28年度）



612

※英語による教養教育科目受講者数（H28年度）



グローバル教育の展開と柔軟な学事暦の導入

英語による教養教育科目（グローバル科目）を全学の教養教育に正式に導入し、H27年度は20科目、H28年度には31科目へと拡充し、延べ**612人**の受講があった。また、現代社会が提起する問題をグローバルな視点から総合的に考える力を身に付けるために留学生と日本人学生が英語で共に学ぶ科目区分である「Multidisciplinary Studies」を新設し、外国人数員が中心に担当する英語による授業科目13科目25テーマの開講を決定するなどリベラルアーツを中心とする教養教育に改編した。その他、H28年度に教養教育におけるクォーター制を一部導入するとともに（H29年度から本格導入）、グローバルリーダーコースにおけるAO入試や入学前教育を実施するなど、グローバル化に向けた様々な教育改革を実施した。

グローバル教育カレッジの創設と様々なグローバル交流活動

本学の教育のグローバル化を先導する目的で、H27年3月にグローバル教育カレッジを創設した。所属する外国人数員が中心となって、英語による教養教育科目の実施のほか、学生の英語力向上のための授業外英語活動「english-TALKmon」を運営し、年間**520人**の学生が参加した。学生の海外留学促進のための英語力強化プログラムであるIELTS講座も年間2回からH28年度は4回実施に拡充し、前年度38人に対して**85人**が参加した。また、グローバル教育カレッジでは、学生・留学生に加え、一般外国人を含む地域市民に向けた様々な活動も行っており、熊本人類学映画会、初級の日本語・日本文化講座、英語によるヨガ講座、フォーク音楽公開セミナー・演奏会、イタリア古典仮面劇ワークショップ、平成28年熊本地震罹災後のセラピー活動など多くの行事を実施し、1年間で総計**364人**（一般外国人41人）の参加があり、地域コミュニティの多文化共生に貢献した。

969

※グローバル教育カレッジ主催活動の合計参加者数（H28年度）

